

三重県中国ビジネスサポートデスク現地レポート

平成25年6月17日

上海デスク 鈴木正治

(上海納克名南企業管理諮詢有限公司

董事・総経理)

(1) 中国の国家休日

中国では6月は端午節により、10日(月)~12日(水)が3連休となっている。これを聞いて、日本的な考えでは、前日及び前々日は土日なので土日あわせて5連休なのかと思う人も少なくないであろう。しかし、国家が定めた祝日は6月12日(水)のみであり、10日(月)11日(火)は、8日(土)と9日(日)を出勤したことによる振替休日としているのである。そうすることで3連休となるわけだが、連休前は7日連続勤務という過酷な労働形態となる。

日本の場合、祝日は来年も再来年も予め分かっているので予定が立てやすいのであるが、中国の国家休日は旧暦に従って設定されるため、毎年祝日が同じ日とは限らない。さらに国務院が振替休日や振替出勤を調整したうえで、翌年度の休日を発表するので、12月の第2週くらいにならないと翌年度の祝日が分からないのは中国の特徴とも言えよう。

2013年度の祝日は下記に示したとおり、29日の休みとなっているが、振替出勤日や連休中の元々休みである土日を除くと、国家が定めた祝日は11日となる。ということで、この11日に通常の土日(2日×年52週)の休日を加えると、カレンダーどおりの年間休日は115日となるのである。

日本の国民の祝日は15日で、お盆休みや正月休みは会社が別途定めていることが多いのに対して、中国ではカレンダーどおりに勤務をする会社が多いため、日本に比べると一般的には休みは少ないといえるであろう。

ちなみに、国家祝日に出勤をさせた場合、時間外労働手当として、賃金の300%を下回らない報酬を支払わなければならない(平日残業150%、土日200%)。

- ① 元旦 : 1月1日から3日までの3日間 [1月5日(土)、6日(日)は振替出勤日]
- ② 春節 : 2月9日から15日までの7日間 [2月16日(土)、17日(日)は振替出勤日]
- ③ 清明節 : 4月4日から6日までの3日間 [4月7日(日)は振替出勤日]
- ④ 労働節 : 4月29日から5月1日までの3日間 [4月27日(土)、28日(日)は振替出勤日]
- ⑤ 端午節 : 6月10日から12日までの3日間 [6月8日(土)、9日(日)は振替出勤日]
- ⑥ 中秋節 : 9月19日から21日までの3日間 [9月22日(日)は振替出勤日]
- ⑦ 国慶節 : 10月1日から7日までの7日間 [9月29日(日)、10月12日(土)は振替出勤日]

(2) 中国大気汚染問題

2013年4月、世界最大級の「上海モーターショー2013」が開催された。このモーターショーは北京モーターショーと交代で、隔年で開催されている。開催された9日間の来場者数は81.3万人という盛況ぶりであった。18の国と地域から約2,000社が出展し、出展社数は東京モーターショーの10倍以上となるとのことである。

昨年の中国の新車販売台数は1930万台、4年連続世界一を記録し、今年は年間2000万台を超える勢いである。ちなみに日本の自動車購入は買換え需要に基づくものが殆どであるが、中国では圧倒的に新規購入が多いようだ。

こうした自動車台数増加の一方で、日本でも多く報道されているとおり、今年は中国各地で深刻な大気汚染が観測されており、その大気汚染の一部は自動車増加による排気ガスを原因としている。

排気ガスはぜんそくや気管支炎などの原因になるPM2.5（微小粒子状物質）の発生源であり、北京市では汚染物質の20%が排気ガスだという。

中国では地域ごとにガソリン基準が異なり、北京市は京5基準、上海は国4基準、別の地域では国3基準、地方ではいまだに国2基準のガソリンを生産している精製所も多い。

中国では国3基準が多くを占めているが、この基準は硫黄分が150ppmを超えてはならないと定められている。この基準は、なんと欧州の15倍もの硫黄分を含む原油製品が販売されている地域が多いことを示しているのである。

経済優先させるべく、環境対策は深刻な状況に陥っているが、硫黄分を除去するために今後莫大なコストが必要となるであろう。

大気汚染問題に不満を持つ国民の矛先が政府に向かっているなか、中国当局は基準の厳格化を進めており、2013年度中にはガソリン、軽油ともに新基準を導入することが決まっている。

また6月5日の中国紙によれば、環境破壊を抑えるため、石炭使用総量の上限目標を定め、各地方政府に割り当てたとのことであるが、その上限を超えた場合の罰則がない、いわば非拘束性の目標であるため、成長を優先する地方政府では、その上限を守れない可能性がある。

環境関連産業は国家プロジェクトであり、外資民間企業の直接的な参入は難しいと思われるが、日本の技術力貢献により、青い空を当たり前のように見れる日が来ることを期待したい。